

こだまでしょうか、 いいえ、だれでも。

矢崎節夫
(金子みすゞ記念館館長)

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていうと
「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
そして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていうと
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

五百十二篇ある金子みすゞの詩を俯瞰(ふかん)した時、全篇を優しく包み込むような作品がこの『こだまでしょうか』ですと、私はずっと言い続けてきました。それだけに今回の東日本大震災を受けて、CMでこの詩が流れたと聞いた時は本当に驚きました。この詩で私が注目したのは、

「こだまでしょうか」という呼び掛けに「いいえ、誰でも」と答えている。誰でも」

こだまというの、山から投げ掛けた言葉がそのまま返ってくるわけですから、大自然の懐に包まれたような安心感を生み出し、私たちの心を優しくしてくれるのです。この詩に触れる心の中で何度もこだましているうちに、どこか優しくなれた自分を見つけること

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていうと
「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
そして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていうと
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

ている末尾の一文です。よいことも悪いことも、投げ掛けられた言葉や思いに反応するのは「こだま」だけではなく、万人の心がそうだとみすゞは言っているのです。

この詩を耳にした日本人は、被災された多くの方々が味わった悲しみや辛い思いに對して、こだます自分でいられるかどうかと考えたのではないのでしょうか。

一人ひとりがこの震災がもたらした被害を、自分のこととして感じる一つのきっかけを与えたのが『こだまでしょうか』の詩だと思っています。

こだまというの、山から投げ掛けた言葉がそのまま返ってくるわけですから、大自然の懐に包まれたような安心感を生み出し、私たちの心を優しくしてくれるのです。この詩に触れる心の中で何度もこだましているうちに、どこか優しくなれた自分を見つけること

詩“こだまでしょうか”に込められた思い。

ができたのでしょうか。

石神夢現

Ishigami MUGEN

発行：石神中学校

【今後の行事】

- 7月20日(木)
1学期終業式
- 7月22日(土)～
県総体
- 8月17日(木)18日(金)
学力強化事業(3年)
- 8月25日(金)
2学期始業式・俳写コンクール
- 8月26日(土)
PTA奉仕作業・リサイクル活動
- 8月28日(月)
夏休み課題テスト
教育相談～9月1日

9月6日(水)
相双地区駅伝大会

9月21日(木)・22日(金)
体験学習

10月6日(金)
中間テスト

10月28日(土)
文化祭

11月21日(火)～
2学期期末テスト

11月29日(水)～
三者懇談

12月22日(金)
2学期終業式

【石中探訪】素敵な掲示物発見!!



保健室の前に、素敵な想いのこもった掲示がしてあります。今日は7月7日七夕の日なんですね。由来も書いてありました。七夕ものがたりを読むと、昔から様々な人々の素敵な想いが叶えられるようにとずっと続いてきた習わしなのですね。今晚晴れるといいですね。夏の夜空を眺めて心を洗いたいと。

県陸上大会開催



7月4日から3日間の日程で、郡山市開成山陸上競技場にて、県中体連総合体育大会陸上競技の部が行われました。我が石神中学校からも地区予選会を勝ち抜いた総勢16名の選手が参加しました。一番暑いときで36度を超える日々でしたが、選手のみなさんは元気に大会に臨んできました。3年生はこれから切り替えていく時期になりましたが、この経験が今後の人生に大きく関わってくると思います。本当にご苦労様でした!!